

国際協力

駒ヶ根訓練所NEWS

JICA駒ヶ根

アルプスがふたつ映えるまち駒ヶ根から
ヒマラヤ輝くネパールへ

当訓練所がある駒ヶ根市とネパール第3の都市ポカラ市とは国際協力友好都市で、昨年11月には友好5周年で駒ヶ根市中原正純市長を団長とする市民33名がポカラを訪問しました。駒ヶ根市は平成10年からJICAネパール事務所に市役所の現職職員を協力隊調整員として派遣しています。このたび大野秀悟さんが第4代目として、本年8月に赴任する予定です。



▲派遣前訓練を体験するため19年度1次隊の訓練に参加した大野さん

—大野さんの抱負—

駒ヶ根訓練所に入所し駒ヶ根市民として誇りに思うと感じたことは、駒ヶ根市に全国各地から様々な才能を持った人達が集まる場所があることです。そこで出会った隊員と一緒に生活していくことで仲間となり、多くのことを学ぶことができ、2ヶ月間の生活で得たものは私の一生の財産となりました。また、隊員候補生に市内を案内している中で、駒ヶ根のすばらしさを再認識することができました。

これからは訓練所でいただいた沢山のことへの恩返しの意味を込めて、学んだことを基に粉骨砕身ネパールで還元してきます。

—駒ヶ根市中原正純市長よりのメッセージ—

協力隊訓練所があるまちとして、JICAと連携し、本市職員を協力隊調整員として派遣するなど、これまで駒ヶ根市は、ネパールとの交流を深めてまいりました。昨年、国際協力友好都市協定5周年を記念し、市民訪問団をネパール・ポカラ市に派遣しました。山岳観光都市として共通の財産を持つポカラ市との友好関係は、市民の誇りです。今後も一層協力し合い、将来にわたってお互いが繁栄していくよう市民の皆さんとともに願っております。

TOPICS

| | |
|-----------------------------------|----|
| アルプスがふたつ映えるまち駒ヶ根から ヒマラヤ輝くネパールへ | P1 |
| 駒ヶ根の魅力にひかれ Iターンした帰国隊員 | P2 |
| 中学生一日体験入隊 | P2 |
| シニア海外ボランティア活動報告 | P3 |
| 元気にやっとなるけ? | P3 |
| 日本赤十字社から 候補生宛に礼状が届く | P4 |
| 訓練所の1日 | P4 |
| お国自慢レシピ | P5 |
| 一日体験入隊 大好評! | P5 |
| 長野県出身ボランティア 奮闘レポートリレー | P6 |
| 出発コメント | P7 |
| 訓練所こぼれ話 | P7 |
| JICA広報グランプリ入賞! | P8 |

駒ヶ根訓練所 (JICA駒ヶ根) の
地域連携事業

訓練所は、JICAボランティア派遣前訓練・研修の他に、県や自治体・学校等と連携した開発教育・国際理解教育の実践支援についても、随時ご相談を受付けております。

駒ヶ根がポカラと
姉妹都市になった理由

平成4年、ネパール隊員の小さなハートプロジェクト(識字教室)に市民団体が支援活動を始めたことに端を発したNGOトカルバのひかりの設立や、中学生の相互訪問など、市民レベルの交流が行われるようになった。

また、駒ヶ根市は、中央アルプスと南アルプスを間近に望むことができ、世界の屋根ヒマラヤを有するポカラ市と山岳観光都市という共通点をもつことなどから、平成13年4月国際協力友好都市協定を結んだ。

駒ヶ根の魅力にひかれ Iターンした帰国隊員

駒ヶ根を含む伊那谷には、協力隊に参加したことが縁で隊員活動終了後、Iターンし、居を構える帰国隊員の方が何人もいらっしゃいます。そんな帰国隊員に、伊那谷に落ち着くことになったきっかけや、魅力について語っていただきました。

野村 裕範さん

(ネパール 都市計画 島根県出身 2003・4～2005・4)

私はネパール・ポカラ市で都市計画隊員として活動をしてきました。配属先はポカラ市役所。ポカラ市は駒ヶ根市と国際協力友好都市の関係にあります。

隊員活動を終え、就職先を探していたときのこと。JICAからの求人情報で「勤務地：駒ヶ根市・・・」の文字に目が止まりました。私のできる建築関係の仕事で、場所は派遣前訓練を受けた駒ヶ根、ポカラ市と姉妹都市の駒ヶ根。これは何かの縁だ、感じました。

実際17年10月より、駒ヶ根に住んでみて、国際協力への意識が大変高い街、という印象です。市民レベルでの活動も盛んで、協力隊週間の祭りや、体験入隊などの各種イベントに熱意を感じます。私も隊員時代の経験を少しでも活かせることができれば、という思いで参加させていただいています。昨年は駒ヶ根・ポカラ友好都市締結5周年事業としての、駒ヶ根市からの訪問団の一員に加えていただき、ポカラを再訪することができました。このように、隊員時代の経験を活かすことのできる街だと思います。

また、ポカラ市との交流の経緯から、ネパール好きの人、実際にネパールへ行ったことがある人の多さに驚いています。隊員同士以外で、ネパールについてこんなに話ができる場所は駒ヶ根をおいて他にはないでしょう。駒ヶ根はネパール密度高し！雪をまもって白く輝く山々も、ネパールでのヒマラヤの眺めを感じさせてくれます。

駒ヶ根に住んで以来、事あるごとにOB・OGに駒ヶ根の良さをアピールしています。そして、協力隊の集う街から「協力隊の住む街」へと発展できれば、と願っています。



▲協力隊週間「国際広場」ネパールブースの皆さんと
(中央オレンジの上着が野村さん)

中学生一日体験入隊 ～環境を語り合った2日間～

5月中旬に行われた中学生体験入隊は、今年度で18回目の開催となりました。今回参加した中学生の中から、一人でも将来の「青年海外協力隊員」が誕生するといいですね！

今年度も駒ヶ根市近辺の中学生とともに、駒ヶ根市と姉妹都市の静岡県磐田市から中学生が参加しました。参加者40名をグループ分けし、グループ学習からレクリエーション、就寝まで、いつもとは違う仲間とともに2日間を過ごしました。今回の中学生体験入隊のテーマは「地球は一つ 世界とつながる自分を見つめよう！」。1日目の「環境プログラム」では、長野県塩尻志学館高等学校教諭で青年海外協力隊OBでもある駒村英明さんから、任国であったエクアドルを例に、どのようにしたら自分たちが消えゆく森を守れるのかという参加型学習を行い、グループごとに知恵を絞りながら、アクティビティ上テニスコート約30面分の森を救うことができました。

また訓練中の青年海外協力隊の候補生たちとのレクリエーションや、訓練スタッフによるたまねぎの皮など身近にあるものを使った染物体験など、盛りだくさんの体験をし、環境保全の大切さ、仲間の大切さを学ぶよい機会になりました。

バスで帰る際に磐田市からの中学生が、駒ヶ根市からの中学生に出発直前まで手を握りながら別れを惜しむ姿が大変印象的でした。



▲草木染を楽しむ磐田と駒ヶ根の中学生
(写真提供：磐田第1中学校)

シニア海外ボランティア活動報告 ～シリアからの便り～

昨年、駒ヶ根訓練所にて、シニア海外ボランティア派遣前研修が初めて合宿制で行われました。その時研修を受けたボランティアの方から、現在任国でどのように過ごしているか報告していただきました。

森野 謙（シリア・渉外促進《アレppo工業会議所》）

中東のシリアより「アッ・サーラーム・アレイコム（皆さまの上に平安を）」（こんにちは）。

日本アルプスの素晴らしい景観に恵まれた駒ヶ根での合宿研修生活から、一転、眼前に樹木が殆んど生えていないカシオン山が聳え立つシリアの首都ダマスカスに降り立って早9ヶ月が経とうとしています。

配属先のアレppo工業会議所は、シリアの工業中心地であるアレppoの製造業者約6千社が加入する団体で、産業振興のための政策提言や産業人材育成研修を主な活動としており、JICAもシリア経済の産業構造の近代化支援の一環として2004年秋よりシニアボランティア（SV）を派遣しています。私は、ここで渉外促進（グループ・コーディネーター）として他の4人のSV（専門分野：繊維染色、鑄造、経営管理、工業廃水処理）の活動がスムーズに展開できるように配属先やJICA事務所との調整をはかっています。具体的には、毎週、日曜日（週初め）の午前中にSVとカウンターパート全員で会議を持ち、前週の活動報告、今週の予定や懸案事項について話し合い、毎回英文議事録を作成し全メンバーとJICA事務所に送付し、アラビア語に翻訳したものを工業会議所の全役員に送付しています。

日常生活ですが、食べ物は豚肉以外肉、野菜、果物とも種類が多く豊富で値段も安いですが。ただ一般のお店ではアラビア語しか通じず、未だに身振り手振りを交えて買い物をしています。SV研修時にアラビア語のアルファベットや数字などの基本的な語学研修があればより早く生活が軌道に乗ったのではないかと思います。ただ研修時に受講した健康や安全に対する自己管理については、治安が良くホスピタリティ溢れるシリアにおいても常に心に留めています。任期一杯、多くのシリアの人達と交流を持ち、また余暇を利用して遺跡の宝庫であるシリアの遺跡めぐりをと考えています。



▲同僚と打合せ中の森野さん

元気に やっとなるけ？

所外活動先より 隊員へのメッセージ

特別養護老人ホーム「千寿園」は、駒ヶ根訓練所が開所し所外活動が始まった昭和54年から候補生を受け入れてくださっています。実は、今春訓練所に着任した山形茂生所長もかつてここで実習した隊員OVです。今回は所長が27年ぶりに同園を訪問し、当時の思い出話に花を咲かせました。

千 寿 園

今年開所33年を迎えた千寿園は平成15年に改築され、山形所長が活動した平屋建ての建物とはずいぶん様変わりしました。「当時、お年寄りの皆さんに音楽や踊りを披露したり、車椅子散歩をしたりした思い出があります。自分の専門外のことなので職員の方に教わり、喜んでもらいたいと思いながら活動していました」と懐かしむ所長に、現在所外活動の受入を担当されている相談マネージャーの秦由美さんは「そうですね。利用者の方は候補生がゆっくり話し相手になってくださるので本当に喜んでいきます。皆さんとても元気で、私たちも毎回パワーをいただいています」と話してくださいました。

環境は変わっても所外活動での触れ合いは脈々と続いています。一人のご婦人の「外国に行く話を聞いたり、手伝いをしてもらったりしたね。草取りなんて、上の方だけむしって、ありゃ下手だったなあ」という笑い話には山形所長も苦笑いでした。



利用者と伊藤未浦候補生（右）、山形所長

日本赤十字社から 候補生宛に礼状が届く!

19年3月に礼状が届いた。その背景を探ってみると、2005年10月パキスタン地震が起きたときに、当時の隊員候補生たちが募金活動をしていたことが分かりました。そこで、当時中心になって動いていた候補生(現隊員)から、当時の様子、そしてその後のパキスタンの様子を報告してもらいました。

青年海外協力隊員・パキスタン・美容師 嶋田 美保 さん

2005年10月、駒ヶ根訓練所での私達平成17年度2次隊の訓練中にその地震は起こった。日に日に増えていく被害者数、テレビでもパキスタンの様子が映り子供たちが泣きながら家族を呼んでいた。自分達が勉強していたウルドゥー語がテレビで流れていることに不思議な感じがしたのを覚えている。そのときパキスタンにいた隊員は活動時間後を利用し、近隣の病院、避難者収容施設等へ自主的にボランティア活動を行っているという話を聞き、「自分達に何かできることはないのか?」と同期隊員5人で話し合い募金を集めようということになり、ポスターを作り朝礼などで訓練所のみんなに呼びかけた。

あの地震から1年半が経つが未だ復興支援活動は続いている。JICAでもいくつかのプロジェクトが生まれ、地震で被害を受けた脊髄損傷の患者にリハビリを行っている隊員もいる。

私達が集めた募金は復興のほんの一部にしかならなかったと思うが、募金に参加してくれた方々、自分の派遣される国もたくさん抱えながらも自分のことのように心配してくれた同期の仲間たちにこの場を借りて「ありがとう」と伝えたい。



▲ 隊員の活動する病院でリハビリを受ける脊髄損傷の女性達



▲ 当時募金を呼びかけた際のポスター

*当時寄付された額は42,267円。日本赤十字社からの手紙によると、「冬は酷寒の地となる山峡部では耐寒物資や、仮設テント住宅を補強するための波形トタン板など住宅資材などを配給しています。また、安全な水の確保と健康維持のため、給水施設の再建やトイレ・排水処理システムの設置を進めています。さらには、農地や家畜が被害を受け生計手段を失った世帯には、種子、苗木、肥料、農耕具等を配布し、自らの手で生活を再建できるよう支援を続けています」とのことです。

「訓練所の一日」 No.11 ～食事当番～

訓練所での食事の配膳・後片付けは、原則として一週間ごとの当番制で、候補生たちは訓練期間中に一度はこの当番を経験することになります。少しでも早く配膳や片付けを始められるよう自分の食事を早めに済ませ、200人にも及ぶ仲間たちへごはんやスープを盛り付け、食べ終わった食器を洗って片づけています。週末には外で食事をとる候補生もいるので、決まった当番はありませんが、代わりに訓練所に残った者がボランティアでこの仕事を率先して行っています。



お国自慢レシピ



訓練所で語学を教えている先生から、出身国のとびつきりおいしいお料理をレシピ付でご紹介!日本人の口に合うように味付けが工夫されています。ぜひお試しあれ!

ネパール料理

アチャール

アチャールは日本の漬物みたいなもので、「これがあればご飯がすすむ」「酒の肴にいい!」というものです。ひろくネパール中で食されている一品。簡単ですぐ作れるのがまた魅力です。



— 準備 —

1. すり鉢でゴマをする(水を入れながらペースト状にする)
*材料を一度に入れず何回かに分けるとすりやすい
2. 大根の先の方三分之一をおろし器でおろす。三分の二を千切りにする。
3. キュウリをサイコロ状に切る
4. 人参を細長く切る(そんなに細くしない)
5. レモンを搾る

— 作り方 —

1. 千切りにした大根をボウルに入れ、塩をいれて手で軽く混ぜる
2. 1にキュウリと人参を入れ、ペースト状にしたゴマを丁寧まぶす
3. 唐辛子を入れ、丁寧に混ぜる
4. 残り的大根おろしも入れ、レモン汁も入れて、混ぜる(味見をする。少し塩辛い方がいい。お好みに合わせて唐辛子も調節する)
5. フライパンに油を熱してターメリックを入れ、直ぐに4にかける
6. スプーンで丁寧に混ぜる
7. もう一度味見をし、塩味、辛さと酸味の調節する(漬物なのでやや濃い味の方が良いとされている)

アチャール(漬物) (8人~10人前)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ●ごま(白) 100~150g | ●塩 20~25g |
| ●大根 1本(中) | ●唐辛子 10g |
| ●キュウリ 3本 | ●サラダ油 50ml |
| ●人参 1本 | ●ターメリック(ウコン) |
| ●レモン 2個 | 5g |

レシピの主は誰おら?

ネパール語の
デヴェンドラ サヤミ講師(後列中央)

サヤミ先生は昭和59年度から23年もの間ずっと隊員候補生にネパール語を教えています(2年間は二本松訓練所)。語学教室の壁には、これまでの隊員たちが書き記したサヤミ先生への色紙が所狭しと飾られています。これらは単に「よき思い出」の品ではなく、語学学習のよい教材にもなっているとのこと。サヤミ先生は、教科書の暗記のようなことは好まず、身近な話題を自分の言葉で表現しながら身につけていくことを一番大切にしています。そのため、授業は候補生の関心事を元に繰り広げられ、和気あいあいと進みます。



隊員のみなさんへのメッセージとして「がんばりすぎるな。でもあきらめるのもやめな。」とのこと。「無理をしすぎないで、自分のできることはなんなのか見つけて、そこから始めれば、できることはきっと広がっていくはず」と温かい笑顔で語ってくれました。

一日体験入隊 大好評!

去る5月12日(土)、主に協力隊に参加を希望する方たちを対象とした一日体験入隊が行われました。

当日は定員の30名を上回る35名が参加し、フランス語、スペイン語、アジアの諸言語などの語学体験学習、隊員活動講義、開発教育アクティビティなどに参加しました。施設見学の時間は、ちょうど訓練プログラムの一つである「生活技法講座」と重なっており、ダンボールオープンや柵作りの作業の様子等を視察しました。語学体験学習は参加者の皆さんにとって最も興味深いプログラムの一つだったようで、語学講師に習った言語で互いに挨拶していました。

参加者からは、候補生は「目標を持って、役立ちたいと強く思っていることが伝わった」「まもなく任国へ出発するという希望に満ちた輝かしい笑顔が印象的でした」といった感想が聞かれました。

秋にも、一日体験入隊を企画します。参加者の方から頂いたアンケートをもとに今回のプログラムから更にパワーアップさせる予定です。協力隊・シニア海外ボランティアに興味がある方はぜひご参加ください!



▲フランス語の授業を体験する参加者

ボランティア 奮闘レポート

report_30

ルワンダ

村落開発普及員（富士見町）

青年海外協力隊

小比木 紀子さん

ルワンダ

面積：2万6,300 km²
 人口：900万人（2005年、世銀）
 首都：キガリ
 言語：仏語、キニアルワンダ語、英語
 宗教：カトリック57%、プロテスタント26%、
 アドベンティスト11%、
 イスラム教4.6%等

(外務省HP：各国・地域情勢より)

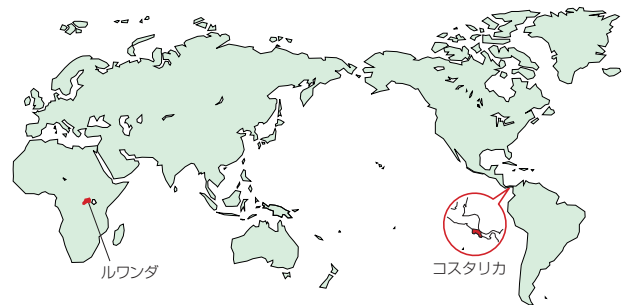
ルワンダの風景は、日本人が「アフリカ」と聞いてイメージする風景とは随分異なっています。小さな丘が連なり、緑豊かで、気候も穏やかなとても暮らしやすい国です。首都キガリの標高は1400M近くあり、雨が降った後は、上着がないと寒いくらいに涼しくなります。そんなルワンダの気候と山だらけの風景は、長野県と似ていると思います。

私は、現在、女性グループの支援を目的に、やる気のある女性グループ探しと、他の隊員と協力して、女性グループメンバーに手工芸制作クラスを開催しています。現在は、主に3つの女性グループでクラスを開催中です。私たちのつたない現地語で作り方を説明し、女性たち自身が制作を行うのですが、器用な人もいれば、自分流でどんどん進めてしまう人といろいろな女性たちがいます。最終的な目標である、メンバーが手工芸品を販売して、現金収入を得るまでには、まだまだ長い道のりが必要ですが、できることから何かを始めようと日々悪戦苦闘しています。

13年前に悲惨な大虐殺が起きてしまいましたが、今は、多くの人たちが未来に向かって進もうとしています。そんなルワンダで暮らせる経験を大切に、無事に帰国し、ここで体験したことを多くの人たちに話すことを楽しみにしています。



▲女性グループでのクラスの様子（左端・小比木さん）



report_31

コスタリカ

工業一般（安曇野市）

シニア海外ボランティア

工藤 元彦さん

コスタリカ

面積：5万1,100 km²
 人口：430万人（2004年国勢調査局）
 首都：サンホセ（北緯10度 標高1,200メートル）
 住民：スペイン系及び先住民との混血95%、
 アフリカ系3%、先住民他2%
 言語：スペイン語
 宗教：カトリック（国教、但し信教の自由あり）

(外務省HP：各国・地域情勢より)

私は現役時代自動車用空調機器部品を製造する工場に勤務し、又メキシコ工場立ち上げに携わった経験を元に「定年退職後の人生を開発途上国の発展に生かしたい」と志願しました。

コスタリカではカウンターパート（私が仕事を教える人）とともに各企業を訪問して生産性向上のお手伝いをしています。各企業の経営者は、「日本は戦争で国が焦土と化したのが戦後60年で世界の第二の経済大国になった・それに比べ中南米の国は相変わらず発展途上国である。ぜひ日本に学びたい。」ということでそのお手伝いを私がしています。従って経営者・管理者・作業者が私の言うことを素直に聞いてくれるので助かります。

他方、生活の方は単身赴任なので三食自炊しています。当初昼飯は勤務先の食堂でランチを食べていたのですが一週間したら胃がむかむかしてきたので毎日自分で作った弁当を持参するようになりました。こちらの食事は米が主体で日本の焼き飯（こちらではガジャピントといいます）に似ていて油（ラード）をがらがら入れます。また、おかずが肉類なので我々60歳代には毎日脂っこいものを食べると胃がもたれてきます。食事のことは別にすると、コスタリカ人は親日的なので不愉快な思いをすることも少なく、毎日楽しい生活を送っています。

コスタリカには多くの外国人（アメリカ・ドイツ・フランス人等）が観光に来ます。自然豊かな国で長野県に似ていますので皆さんもチャンスがありましたらお越しください。



▲スペイン語学校の先生夫婦とボランティア仲間（左端・工藤さん）

行ってらっしゃい!! 長野県出身・新ボランティアのみなさん

長野県出身のボランティア計7名が6月下旬から、それぞれの任国へ出発しました。
(敬称略。かつこ内は派遣国名/職種/出身市町村)

【青年海外協力隊】



かなざわ けいこ
金澤 桂子
(インドネシア/保健師/木曾郡大桑村)

インドネシアのほぼ中央にあるスラウェシ島で保健師として母子保健活動に携わります。異なる環境や価値観に戸惑うこともあるかと思いますが、受け入れるべきところは受け入れ、伝えるべきところは上手に伝えることができるよう工夫しつつ、こつこつとやっていきたいと思っています。



しみず としひろ
清水 理博
(ニカラグア/小学校教諭/下伊那郡高森町)

大学時代を県外で過ごし、長野県の良いところを知り、それまで以上に長野県の人・文化・自然を好きになりました。小学校教諭としてニカラグアへ行きます。日本の良いところを見つけながら、精一杯活動していきます。



こばやし みゆき
小林 美由樹
(ネパール/看護師/須坂市)

ネパールのカトマンズにある国立病院で活動する予定です。ネパールの人達と一緒に、お互いに高めあうことができるような活動をしてきたいと思っています。



なかかわ ゆき
中川 優希
(ニジェール/栄養士/長野県職員現職参加/愛知県出身)

サハラ砂漠の真ん中、世界で最も貧しい国のひとつであるニジェール共和国で、小学校を核とした住民の健康づくりと衛生教育に関わります。このような機会を得たことに感謝しつつ、過酷な環境で暮らす人々から「生きるとは何か」を学ぶことができます。



こばやし ちえ
小林 千恵
(ラオス/看護師/長野市)

ラオスの中部にある県病院で看護部の管理体制の強化と病棟スタッフに対して看護サービスの向上に取り組めます。患者さんが安心・安楽に入院生活が送れるような活動ができればいいと思います。ラオスの文化を学びながら、長野県について多くのラオスの人達に紹介していきたいと思っています。



ひらばやし ちさき
平林 智咲
(カンボジア/小学校教諭/佐久市)

改めて出会いの素晴らしさ、喜びを感じています。出会いの数だけ自分の視野が広がり、心が豊かになると思います。2年間、日本を出てより多くの人と出会えるチャンスを与えていただいたことに感謝し、精一杯活動していきます。



【日系社会青年ボランティア】
かつまた ひろみ
勝又 洋美 (パラグライ/ソーシャルワーカー/飯田市)
イグアス移住地での福祉新規派遣という機会を生かし、出来ることから1つ1つ。長続きする自立支援・主役は移住地のお1人、お1人をモットーに、お手伝いができればと思います。
笑顔で実り多い2年にしたいです!

次回の訓練予定

平成19年度2次隊

平成19年7月11日(水)～9月13日(木)

訓練所こぼれ話 No.3

高橋 成雄さん

(駒ヶ根訓練所第3代目所長 S57.4.1～S58.6.30)

《いましめの桜》

昨年4月、久しぶりに懐かしい駒ヶ根訓練所を訪ねた。敷地を案内していただき、見事に大きく育った糸桜に直面、忘れもしない「いましめの桜」がそこにあった。昭和58年3月、訓練終了間近、5人の隊員候補生が不祥事を起こし、その取り扱いについて協議、特別訓練(座禅)を行い、その結果本人の意思を確認の上派遣の可否を決める事にした。当時駒ヶ根市の鈴木教育長は、蔵澤寺の住職でもあったので、一週間の座禅をお願いした。蔵澤寺は、曹洞宗の格式の高い寺で、境内に大きな糸桜があったのを覚えている。こうして、訓練終了後、特別訓練として一週間の座禅が行われ、所長も職員も一緒に付き合うことになる。座禅のあと5名の反省と決意を聞いたうえ派遣手続きに入った。この時、候補生が鈴木住職から座禅の体験を大事に、また二度とこのような不始末を起こさない様にと諭され、寺の境内にある糸桜の苗を記念に、20本余り貰い受けたので植えさせて欲しいとの申し入れに、自戒を込めて受ける事にした。かねてから訓練所の敷地に桜の木が無かったので、改めて桜を植える事を提案、其れも訓練所が買うのではなく、職員一人ひとりが一本ずつ桜の苗を寄付し、隊員候補生を桜の花で迎え、我々も何時の日か、駒ヶ根を訪ね、育った桜の花を見る、ささやかな夢を語り合い、桜は職員の手によって植えられた。その後枯れたり、増改築などによって伐られたりしたので、現在残っているのは数本であるが、幸い「いましめの桜」が立派に育ち、威厳さえ感じられる。訓練所の28年余の歴史を静かに見てきたに違いない、これからも無言の語り部として生き続けて欲しいものである。

*なお、この桜は「反省の桜」と呼ばれることもあります。(訓練所:注)

訓練所で繰り返される毎日の中には、写真や記録には残らないけれど忘れ難い、心動かされる一言、面白い出来事、意外なエピソードなどがたくさんあります。そんな訓練所のこぼれ話をご紹介します。今回の執筆者は駒ヶ根訓練所の第3代所長の高橋成雄さんです。



高橋元所長と「いましめの桜」

JULY

7月

- 6月30日(土)～7月1日(日) 清泉女学院短期大学集中講義 (駒ヶ根訓練所)
- 9日(月)～20日(金) ODA切手パネル展 (県庁)
- 11日(水)～21日(土) ポーランド・ボランティアプログラム派遣団来訪 (駒ヶ根訓練所)
- 11日(水) 19/2次隊派遣前訓練入所式 (駒ヶ根訓練所)
- 13日(金) 13:00-14:50 公開講座「青年海外協力隊事業の理念」 (講師：大塚 正明事務局長/青年海外協力隊事務局)
- 17日(火) 14:00-14:50 公開講座「JICA事業概要」 (講師：丸山 英朗チーム長/青年海外協力隊事務局)
- 18日(水) 15:10-17:00 公開講座「国際関係と日本の国際協力」 (講師：廣野 良吉氏/成蹊大学名誉教授)
- 28日(土) 13:00-14:50 公開講座「異文化の理解と適応」 (講師：木村 秀雄氏/東京大学大学院総合文化研究科教授)

AUGUST

8月

- 2日(木) 15:10-17:00 公開講座「日本の近・現代史」 (講師：佐藤 寛氏/アジア経済研究所 研究支援部長)
- 3日(金) 15:10-17:00 公開講座「技術と開発のかたち」 (講師：中村 尚司氏/龍谷大学経済学部教授)
- 26日(日) 15:20-17:00 帰国隊員報告会(公開) (青年海外協力隊帰国隊員)

SEPTEMBER

9月

- 5日(水) 15:00～17:00 公開講座「地球のステージ」(コンサート) (講師：桑山 紀彦氏/地球のステージ事務局理事)
- 13日(木) 19/2次隊派遣前訓練修了式 (駒ヶ根訓練所)
- 29日(土) アフリカキャラバン in 長野 (駒ヶ根訓練所)

JICA広報 グランプリ入賞!

訓練所NEWS第16号『もしも駒ヶ根に訓練所がなかったら』の記事がヒューマンストーリー部門に入賞しました!「駒ヶ根市の少年が中学生体験入隊に参加し影響を受け、社会人経験を経て、あこがれだった協力隊員になったという話が、まさにヒューマンストーリーである」と評価を受けました。記事を執筆されたのは塩澤真洋さん(駒ヶ根市出身)。大変栄誉ある報告ができて、うれしい限りです。

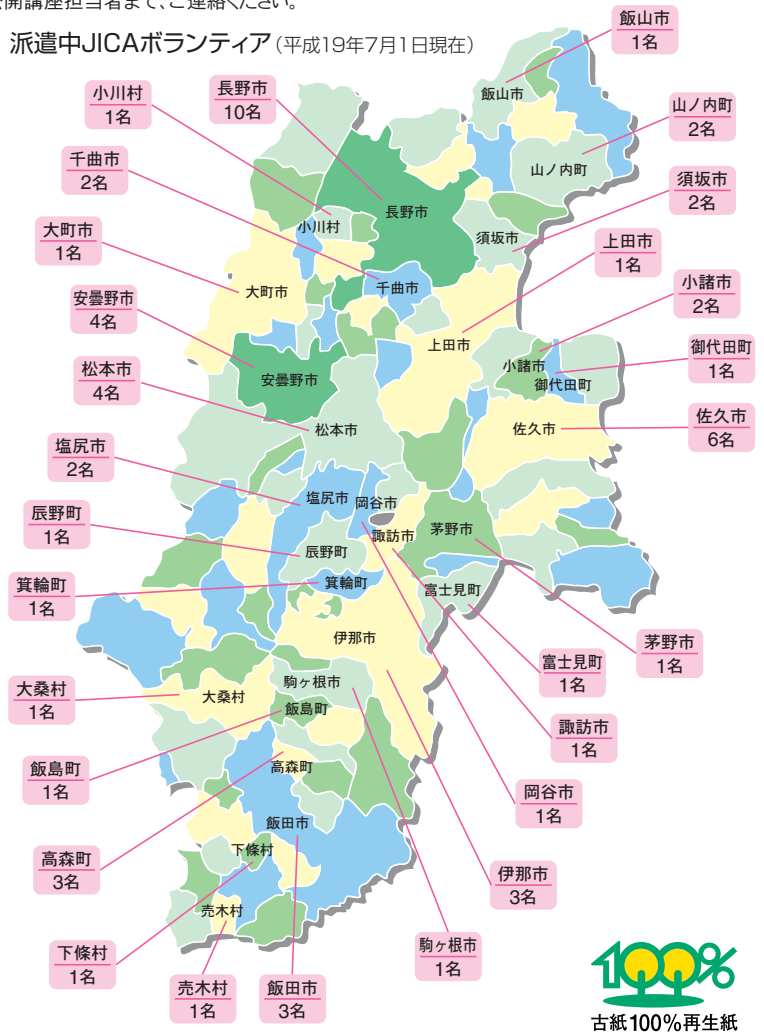
◆ 公開講座の聴講を希望される方は2日前までに、駒ヶ根青年海外協力隊訓練所・公開講座担当者まで、ご連絡ください。

がんばれ!!長野県出身JICAボランティア!

JICAボランティア派遣実績 平成19年7月1日現在

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ①青年海外協力隊員数 | ③日系社会青年ボランティア数 |
| 派遣中 51名 (内女性36名) | 派遣中 1名 (内女性1名) |
| 帰国 583名 (内女性246名) | 帰国 13名 (内女性7名) |
| 累計 634名 (内女性282名) | 累計 14名 (内女性8名) |
| ②シニア海外ボランティア数 | ④日系社会シニアボランティア数 |
| 派遣中 5名 (内女性0名) | 派遣中 0名 (内女性0名) |
| 帰国 25名 (内女性5名) | 帰国 2名 (内女性0名) |
| 累計 30名 (内女性5名) | 累計 2名 (内女性0名) |

派遣中JICAボランティア (平成19年7月1日現在)



編集後記

この春の訓練候補生は現職教員が多くなり、全体の20% (45名) を越えました。「せんせい」隊員たちを通じて、日本のこどもたちが、世界中から生の情報を得て、興味・関心を深めていくすばらしい機会となりそうで期待大です。

(キ)

駒ヶ根訓練所 インターネット情報



駒ヶ根青年海外協力隊からのお知らせ・公開講座・イベント情報など内容は盛り沢山です。本紙「駒ヶ根訓練所NEWS」もPDF版でご覧いただけます。

アドレスは
<http://www.jica.go.jp/komagane/index.html>



信州発 国際協力

独立行政法人 国際協力機構 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117
長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL.0265-82-6151(代)/FAX.0265-82-5336
E-mail/jicakjv@jica.go.jp

